



令和5年(2023年)第6週 2023年2月6日(月)~2023年2月12日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



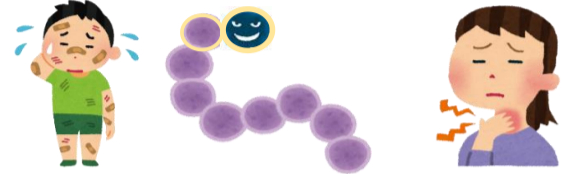
今週は劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出がありました。

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、レンサ球菌による感染症です。通常は、レンサ球菌に感染しても症状が無いことも多く、ほとんどは咽頭炎（週報報告にある、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎もその一つです）や皮膚の感染症にとどまります。しかし、まれに通常は細菌が存在しない組織（血液、筋肉、肺など）にレンサ球菌が侵入し、急激に症状が進行する重篤な疾患となることがあります。1999年に感染症法の全数把握疾患5類感染症に指定されてからは、毎年100~200人の報告があり、致死率は約30%です。メディア等では「人喰いバクテリア」ともいわれています。

・**症状**………初期症状としては、四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などで、**病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内**には、重症の呼吸困難や多臓器不全等を引き起こし、**ショック状態から死に至る**ことも多いです。

・**感染経路**…咽頭、粘膜、皮膚からレンサ球菌が侵入し、皮膚軟部組織感染症が半数以上、気道感染症が約2割を占めます。



◆治療法は？

集中管理のもと、抗菌剤による治療が行われます。筋膜炎の場合は、壊死を起こしている部分を切除し感染の拡大を防ぎます。重症化のリスクを下げるためには、**早期に治療を開始することが重要です。**

◆予防法は？

特別な予防法はありませんが、傷を清潔に保ち、創部の発赤や腫脹、痛み、発熱など、感染の兆候が見られた場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者報告数

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4) 速報値	2023 (R5) R5.2.12現在
全国	415	494	587	694	894	718	622	732	104
熊本県	7	7	7	9	5	9	8	9	1
熊本市	4	4	7	8	4	7	6	8	1

期 間		2023年 5週		2023年 6週	
		1/30~2/5		2/6~2/12(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		349	13.96	373	14.92
RSウイルス感染症		20	1.25	12	0.75
咽頭結膜熱(プール熱)		3	0.19	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	0.25	2	0.13
感染性胃腸炎		91	5.69	82	5.13
水痘(みずぼうそう)		2	0.13	3	0.19
手足口病		2	0.13	0	0.00
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		7	0.44	7	0.44
ヘルパンギーナ		6	0.38	7	0.44
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		2	0.13	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		2	0.40	4	0.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00